

知人が太い庭木を切ったので薪用に頂いた。樹種は樅の木で、幹の太さが20～30センチ余り。庭師さんが切り倒してから長さ1m余りに切ってくれていた。樅の木は針葉樹なので、薪ストーブとして使うにはベストではないが、十分乾燥さえすれば問題ないので来シーズン用だ。

長さ1mあまりで、なんとか一人で車に乗せて持ち帰り、チェーンソーで30～40センチの長さにカットする。その後、油圧の薪割り機で何本かに割る。このところ台風と秋雨前線の停滞で毎日雨が続くので、デッキからタープを張ってその下で作業をする。すべて割ってしまった方が当然乾きやすいが、置くスペースもなくなってきたので、半分ほどは玉切りのまま保管する。チェーンソーの刃は新品に替えたのでよく切れたが、量がたっぷりあったので丸三日かかった。10月下旬頃からストーブを点けることになるが、まだ9月下旬というのに、このところ雨続きで気温が低い。冬はいつもより早いのだろうか。夏が例年より暑かっただけに、秋も冬も早く来るよという村人もいる。

9月上旬、1週間足らずの間に奥穂のザイテングラードで別々に3人が亡くなった。68・70・58歳の男性で、70歳の方以外は単独だったようだ。二人は滑落、一人は原因不明。このルートは奥穂へのメインルートである一般登山道。中旬の連休には明神岳東稜でも遭難があったが、こちらはバリエーションルートだ。様々な要因があると思うが、最近、高齢者の遭難が目立っている気がする。自分自身の体力を考えても、かつてのように無理が利かなくなってきた。のんびりゆっくりペースで行かないと、体力あるメンバーとテント泊などで同行する場合、迷惑掛けそうだ。ルートや一日の行動時間にもよるが、テント泊しながらの縦走は、いつでも大丈夫ということはなくなってしまった。

今年は長雨で、きのこの生育も早いとのこと。キノコと言えば、大阪ではマツタケか椎茸くらいしか知らなかったが、長野県人は野生のキノコと山菜には、実に目がない。「何々？どこで、何が採れたって？」と、目の色が変わるとはこのことかと思うくらいだ。採集場所は「息子の嫁にも言わないよ」という。白馬に来て6年になるが、人工栽培のエリンギも食べるようになったし、自分でもおいしいと知ったのは、山菜では例のタケノコ（ネマガリダケ）だ。ただ、長野県人といえども、山菜でも種類によって、中信の人は食べるが北信の人は食べないとか、地域によっても違うらしい。

今年は早い雪解けで少ない残雪、高山植物の開花も前倒しと、全てが例年より早く、紅葉も早いと思われたが、冷え込みが弱いので紅葉の進みもゆっくりのようだ。



9/22 記